

# 寺崎組新聞

発行所 寺崎組新聞社

## 大命下る!

### 第五十三回

#### 登山組会

皇紀二千六百五十六年(平成八年)四月吉日、私に総司令部より封書が届いた。中には今年度に於ける決戦(組会)配備と作戦要領を定めた「機密作戦命令書第二十四号」があった。

—命令—

組員は、来る十一月十三日、山梨県大和村、黒岳山麓に集結し以下の任務を遂行すべし。

- 一、湯の沢峠より黒岳方面へ向かう
  - 二、途中の草場の広場に野営せよ。
  - 三、宴を行い大量の酒を摂取せよ。
- 私は、読み終えろと思わず武者震いした。(ああ俺は組員無上の名譽ある任務を受けた。この大作戦は死んでも全うしなければならぬ。一帝都は春の氣配を次第に濃くしつつある一日であった。)

十一月二十三日二五三〇時焼山沢林道終点、湯の沢峠直下の避難小屋前広場に到着。既に皇軍報道班(沢海さん)の陸上巡洋艦(ランクル)や一騎当千の猛者組員達の駿馬(XL, Raid)が集結していた。ここからは二本の道で歩兵として登り始めるのだ。騎兵の生命たる明石産の名馬(GPZ400改)より下馬し立ち上がった。みよ! 凛然たるこの雄姿を! 道は遠く(たったの二時間)背負は重く(荷の半分は糧食と酒?) 宴の地は高い(標高千八百m位)。果して幾人が酒を飲み過ぎないで生きて帰って来るのだろうか? 肩を上げて重刀(ストック)を抜いた。小金沢連嶺北東には、かしくも寺崎大元帥閣下がまします。「擽げ刀!」(一度下山し、車を待っていた中高年登山者達に「バックリやないの!」という顔で見られた。)



下山者達が皆、口を揃えて「白谷丸の辺りで奇妙な声を聞いた。」と言う証言に力を得て蕭々と登山道を進む。今しも、うっすらと霧が流れ始めるとみるみると谷を埋め、下から上へと濃く成ってきた。

さて、この辺が白谷丸なのだが、思っていると、どこからかともなくローレライの歌声が... いや、これは酔金ごと金子氏の歌声だ! 誘われる様に声の方に引き寄せられると見えた! 眼下のすすきの原の中から黄色い天幕が姿を見せた。

ああ天照大神も御照覽あれ! 天祐神助とはこの事か。寺崎元帥と会見の白谷丸何処。

大元帥閣下に直立不動の姿勢から最敬礼! レキの重刀(ストック)の事が夕日に輝いて(沢海氏のストロボの事) 忠烈の魂とおお。

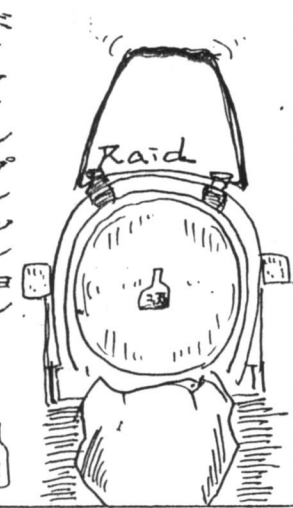
これを迎える將卒は、私の心中を察して涙をこぼす者も居た... かな。

(昼の二時から飲んでくれて居た組員達は既に酔っぱらって居たのである。)

そのまますその夜は阿鼻叫喚地獄絵図の中島みゆきや陛下の玉音放送。酔った頭の中を「山ゆかば酒漬く屍」と言うフレーズがささるのであった...

美醜麗句に飾られ、内容は空虚なるは大本営発表の情なり。

記 二百号 小室



バイクインプレッション

TT250R Raid 七年間こき使い続けたXLRに見切りをつけ、レイドを二年ローンで入れました。組員の中にも購入を考えている方もいると思われ、三ヶ月間乗って感じた事を書いてみましょう。

フラットなエンジン特性は面白みにかけるが、トルクフルで疲れ知らず旅の道具として割り切れば非常に良いエンジンだと思ふ。

16リタンクはやはり有難い。27km程度は走ってくれるので、空になるまで走れば400km以上。まずは1日1回の給油で充分となる。満タン状態の走行でもそれほどの重さは感じない。

足回りのセッティングはソフト。乗心地は良いが、野宿装備満載でペーシングを上げるとチと苦しくなってくる。あっちこっちに調整機構がついているのでためにセッティングを出してやれば何とかかろうである。

分厚く幅広のシートは尻が痛くならず非常に良い。XLRでは、2日目には泣きが入ったが、3日走ってもほとんど痛さ知らず。

リヤホイールのカラーが脱落しないように注意しているのは、パンク修理の時に有難い。これでスイングアームのエンドが開放式になっていれば言うこと無しなんだが。

荷物を積むことを前提としているバイクの荷物は、オプションのキャリアを装着すると、その下にテールランプが来るようにようになってしまふ。大荷物を積むとテールランプの視認性が非常に悪くなってしまう。現在リヤフェンダー先端に小型のテールランプの増設を検討中。

エンジンの铸件部の仕上げ等、細部の仕上げには悪さが目立つ。「仕上げの良いヤマハ車」というイメージは昔のものになってしまったのか。以上独断と偏見に基づき書きました。もちろん人によって感じ方は違ってくると思ひますので、あくまで参考程度に考えて下さい。

記 駿金

やっぱり役に立たない オーストラリア事情

オーストラリアの野盗 十九世紀にオーストラリアで横行した強盗。警察を逃れるためゴッド(奥地にいたのでこの名がある)。

脱獄囚が多く凶悪犯も多かったが、英雄視される者もあり、裁判でも陪審員が無罪を宣することが多かった。十九世紀の終わりにほとんどいなくなったが、小説に語られパレードに歌われる、有名な野盗に次の二人がいた。

・ Ned Kelly (1855-88) 銀行強盗、殺人などを重ねた凶悪犯、追われるとホテルに逃げ込み人質を取り声明文を発表するなど警察を愚弄した。パケツをかぶった様なヘルメットと防弾衣コートを身につけたことでも有名。1880年ついに捕えられ処刑された。

最後に彼はこう言い残した、Such is life (人生とはこんなもんだ)

・ Captain Thunderbolt (1836-70) NSW州各所に出没、強盗を働いたが一度も人を殺さなかった。元騎手であったため、常に騎馬警察隊を逃れることができた。1870年、馬が撃たれて落馬し射殺された。彼の銃には弾が込められていなかったという。

参考文献 オーストラリア英語辞典・森本勉編 大修館書店

by J-King



「原稿大人賞券集束の」

「お知りませ」

良い子も悪い子も寺崎組もその子備軍も自分らしさを原稿で写真でマンガで自分だけの表現でしてみませんか?

送り先は左記

新聞講読料振り込み先

郵便貯金

記号

番号

氏名 寺崎 勉

住所 〒 東京都国分寺市東元町

組新聞講読料/年間 二千円以上



編集後記

大元帥閣下がいよいよお親が変なせつなよー地フリクワッてくせにやっつてまよまよ、いぜー北 古いパソコン欲しいんは私にイェー! 買ッて金 2度目の春です♡♡♡

後 年末大洗からソリに東上し仕事が多くなるとまよまよ、マヨマヨのメール貼るぞっ

丸 寝る場所を私にくんたい、おんまよまよ

おんまよまよ

こざかい室内犬め





